

各地の農林事務所農業振興普及部について

1 農林事務所の実証圃について

農林事務所農業振興普及部の監査の一環として次の農林事務所を往査し、実証圃に係る事業を確認した。

- ・ 県北農林事務所
- ・ 県中農林事務所
- ・ 県南農林事務所
- ・ 会津農林事務所
- ・ 相双農林事務所

【問題点】

稲作の有機栽培、特別栽培の実証圃について

普及年報等を読んでも技術的説明が多く、慣行栽培との違いがわかりにくいので、慣行栽培との比較表を作成依頼した。肥料費・農薬等は比較のために作成したものであり、全ての生産費は入っていない。その結果次のような問題点があると思われる。

特別栽培では化学肥料、化学農薬の使用量を慣行栽培の半分以下にすることになっているが、慣行栽培と特別栽培とで使用する化学資材が違っているため、半分以下になっていることが一目瞭然には分らない。

実証圃では、市販の有機肥料を使用しているが、今後は、たい肥等地域の有機性資源の循環利用を推進する必要がある。

特別栽培米は、慣行栽培米より1割程度高く販売されている。しかし、肥料費などが高くて採算が合っているとは考えられない。

【意見】

農林事務所の実証圃は確立された農法（技術）の普及のための展示実証圃である必要があるが、普及年報での記載などからは、確立された農法であっても地域によっては栽培の条件が異なるので実証圃で実験すると、農林事務所では考えているように伺われる。農業の専門の普及指導員であるなら、確立された農法をその地域に導入する場合、実証圃での実験をしながら、問題点やその対策を充分立てられると思われる。

県北農林事務所

(1) 有機・特別栽培

有機栽培と特別栽培の実証圃を実施している。

「ふくしま型有機特別栽培技術実証圃成績書」によると次のとおりである。

有機栽培

- ・技術実証圃のねらい

有機栽培では防除が難しい害虫あるいは雑草の制御の可能性を早期灌水技術など、耕種の防除法及び物理的防除法を活用しながら実証する。

特別栽培

- ・技術実証圃のねらい

無化学肥料、除草剤 1 回のみによる特別栽培の可能性を検討し、有機栽培への移行の際の課題を掘り起こす。

「ふくしま型有機特別栽培技術実証圃成績書」には肥料や農薬の使用量のみが記載され、金額は記載されていないが、県北農林事務所が作成した実証圃・対照圃の比較表は次のとおりである。

有機・特別栽培と慣行栽培の比較表(作物名:水稲)

1 10aあたり費用(償却費、諸材料費、動力光熱費等は除く)

費用	名称	規格 ・単位	単価	有機栽培		特別栽培		慣行栽培	
				使用量	金額	使用量	金額	使用量	金額
種苗費	種子代	1kg	500	1.3kg	650	1.6kg	800	2.2kg	1,100
	種子消毒代	1処理	600	1回	600				
	クレハ有機培土	20kg	1,030	80kg	4,120	57kg	2,936		
	〃 後土 = 覆土	20kg	1,030	20kg	1,030				
	ケルバック	100cc	1,155	50cc	578				
	クラパビー	1枚	40			15枚	600		
	粒状培土	20kg	987					48kg	2,369
	小計				6,978		4,336		3,469
肥料費 (土改材 を含む)	チリカM	20kg	2,650	40kg	5,300				
	グアノボール	20kg	1,650	40kg	3,300				
	バイオ有機	20kg	2,650			66.8kg	8,851		
	チリカM	20kg	2,650	15kg	1,988				
	ソフトシリカ	20kg	1,780	40kg	3,560	40kg	3,560		
	米糠	15kg	380	75kg	1,900				
	米糠ベレット	15kg	380	63kg	1,596				
	緑鮮	20kg	2,980	20kg	2,980				
	岩塩	10kg	920	10kg	920				
	コシヒカリ専用	20kg	2,289					30kg	3,434
	NK-C6	20kg	1,764					5kg	441
	けい酸加里	20kg	2,132					20kg	2,132
小計				21,544		12,411		6,007	

費用	名称	規格 ・単位	単価	有機栽培		特別栽培		慣行栽培	
				使用量	金額	使用量	金額	使用量	金額
農薬費	ラクダープロフロアブル	500cc	2,760		0	500cc	2,760		0
	バイゲットプリンス箱粒剤	1kg	2,998		0		0	1kg	2,998
	トップガンフロアブル	500cc	2,762		0		0	500cc	2,762
	マメットSM粒剤	1kg	1,743		0		0	1kg	1,743
	コロトップ粒剤	1kg	1,670		0		0	1kg	1,670
	小計				0		2,760		9,173
その他	ニーム	1kg	1,050	2kg	2,100		0		0
	小計				2,100		0		0
作業委託料	刈り取り	10a	12,500	10a	12,500	10a	12,500	10a	12,500
	乾燥調製	1袋	550	15袋	8,250	11袋	6,050	17袋	9,350
	初摺り	1袋	350	15袋	5,250	11袋	3,850	17袋	5,950
	小計				26,000		22,400		27,800
流通経費	紙袋	1袋	80	15袋	1,200	11袋	880	17袋	1,360
	検査量	1袋	50	15袋	750	11袋	550	17袋	850
	認証料	1袋	380	15袋	5,700		0		0
	認証料	1袋	53		0	11袋	583		0
	小計				7,650		2,013		2,210
	合計				64,272		43,920		48,659

その他には、アイガモ、紙マルチなど肥料・農薬の削減に係る資材を記載

特別栽培における化学肥料・農薬の削減割合

(100 - (実証圃での化学肥料・農薬使用量 / 慣行基準の使用量 × 100))

注1) 肥料(慣行基準 6kg / 10aあたり)

	名称	窒素成分量(kg) (流通規格あたり)	うち有機質由来 窒素成分量(kg)	使用量	総窒素量	有機由来 窒素量
肥料 (窒素成分)	バイオ有機	1.44/20kg	1.44/20kg	66.8kg	4.81kg	4.81kg
	ソフトシリカ	0.00	0.00	40kg	0kg	0kg
	計				4.81kg	4.81kg
				削減割合	100 %	

注2) 農薬(慣行基準:17成分)

	名称	化学農薬成分数 (流通規格あたり)	使用回数	成分量	
農薬 (成分)	ラクダープロフロアブル	4成分	1	4	
		成分		0	
	計			4	
				削減割合	76.5 %

2 10aあたり収支比較

	有機栽培	特別栽培	慣行栽培
収量(kg/10a)	450	330	510
販売価格(円/60kg)	24,000	16,300	13,500
粗収益(円)	180,000	89,650	114,750
費用(円)	64,272	43,920	48,659
差引(円)	115,728	45,730	66,091

特別栽培は、その認証を受けるために申請した栽培計画で追肥に使用することとしていた肥料を納入業者が急遽供給できない状態になり、計画の変更手続きをとる期間もなかったために追肥ができず、その結果、栽培に影響が生じ収量が悪くなっている。また、その追肥の分だけ10aあたりの費用は低くなっている。

(2) 園芸

県北農林事務所には園芸産地振興担当が 2 人配置され、いちご（ふくあや香）の産地振興を行っている。

「ふくあや香」について

- (1) 品種特性（産地における主力品種の「とちおとめ」と比較）
平成 15 年 2 月に種苗登録出願を行い、平成 18 年 2 月に品種登録
品種特性は半促成栽培に向く
メリット：冬期間の低温でも生育が旺盛、食味は甘味に加えて酸味があり、大玉
デメリット：出荷時期が遅くトータルの収量が少ない、炭疽病に早く罹病しやすい
- (2) 「ふくあや香」推進の考え方
「ふくあや香」の導入については、半促成栽培の多い県北地方に主に導入され、初年度の平成 16 年度は 0.8ha、平成 18 年度は 3.0ha までに拡大した。
この後、平成 19 年度頃から、栽培現場において炭疽病や萎黄病などの土壌由来の病害の発生が多発し「ふくあや香」が「とちおとめ」より炭疽病に罹病しやすい実態がみられたことから、平成 20 年度には 1.8ha に減少している。
このことから、「ふくあや香」については、産地の主力を目指す品種に位置付けるものではなく、その品種特性（低温で生育が良好、甘味と酸味があり大玉）を経営に活かせる生産者が活用する品種として位置付けることとしている。

県北農林事務所における「ふくあや香」の推進について

県北農林事務所では、病害に対応すべく、平成 20 年度には病害対策実証圃を設置するとともに、以下の栽培資料により病害の軽減に努めている。さらに、平成 21 年度には「ふくあや香」等の苗を確保する試験にも取り組んでいる。

- いちご「ふくあや香」栽培の手引き（平成 20 年度版）
- 「ふくあや香」の栽培管理について（平成 20 年 7 月 22 日）
- イチゴ保温開始前後の管理（平成 21 年 11 月 17 日）
- いちごの土壌病害を出さないために（平成 22 年 2 月）

その他に県北農林事務所では、以下の果樹の産地振興を行っている。

もも「ふくあかね」は、福島県産の「あかつき」より糖度が高く、甘味と酸味が調和して濃厚な食味をもっている。そして「あかつき」（お盆前）「川中島白桃」（8 月下旬）の間に収穫できる品種として開発された。収穫作業の平準化を狙ったものである。

なし「涼豊」は、甘味が多く酸味が少ない。貯蔵しても高品質を保持し、1 冷蔵で 12 月まで出荷可能である。「幸水」、「豊水」より遅く、9 月下旬に収穫できることを目的としている。

ぶどう「あづましく」は、酸味が少なく甘味がある。ぶどうの代表品種「巨峰」と比較すると肉質が柔らかく、皮離れもし易い。巨峰は9月に収穫されるが、あづましくはお盆前に収穫できることを特徴としている。

県中農林事務所

(1) 実証圃の中の特別栽培について

県中農林事務所の「農業改良普及年報」によると、「JAの研究会を中心に栽培暦を作成しながら15年間取り組まれている特別栽培米について、県の実証事業等で得られた知見をもとに肥培管理や病虫害防除の指導・支援を行いながら安定栽培を展示し、管内における特別栽培米生産の普及拡大を図る。併せて特別栽培米生産における生産費や労働時間の把握を行う。」と記載され、使用肥料や使用農薬、収量、作業時間、農家の収支などが記載されている。農家の収支については対照圃との比較ではなく、農家全体の収支が記載されている。

上記年報には肥料、農薬の使用量のみが記載され、金額は記載されていないが、県中農林事務所が作成した実証圃・対照圃の比較表は次のとおりである。

特別栽培と慣行栽培の比較表(作物名:水稲)

1 10aあたり費用(流通経費、償却費、諸材料費、動力光熱費等は除く)

費用	名称	規格・単位	単価	特別栽培		慣行栽培	
				使用量	金額	使用量	金額
種苗費	水稲種子(消毒済)	1kg	546	4kg	2,184	4kg	2,184
					0		0
					0		0
					0		0
小計					2,184		2,184
肥料費 (土改材を含む)	マイルド有機030	20kg	2,961	40kg	5,922		0
	マイルド有機828	20kg	2,393	25kg	2,992		0
	コシヒカリ専用	20kg	1,545		0	50kg	3,863
	NK-C6	20kg	820		0	12kg	492
小計					8,914		4,355
農薬費	タチガレン粉剤	1kg	1,134	124g	141	124g	141
	スタークル箱粒剤	1kg	1,880	1kg	1,880		0
	嵐プリンス箱粒剤	1kg	3,833			1kg	3,833
	テラガード(除草剤)	1kg	2,500	1kg	2,500		
	トップガン(除草剤)	1kg	2,888			1kg	2,888
	コラトップ粒剤5	3kg	1,712	3kg	1,712	3kg	1,712
	MR.ジョーカー	3kg	900		0	3kg	900
小計					6,233		9,474
その他					0		0
					0		0
小計					0		0
合計					17,331		16,013

その他には、アイガモ、紙マルチなど肥料・農薬の削減に係る資材を記載

特別栽培における化学肥料・農薬の削減割合

(100 - (実証圃での化学肥料・農薬使用量 / 慣行基準の使用量 × 100))

注1) 肥料(慣行基準 6kg / 10aあたり)

	名称	窒素成分量(kg) (流通規格あたり)	うち有機質由来 窒素成分量(kg)	使用量	総窒素量
肥料 (窒素成分のみ)	マイルド有機030	2/20kg	1.06/20kg	40kg	4kg
	マイルド有機828	1.6/20kg	0.848/20kg	25kg	2kg
	計				6kg
削減割合				53 %	

注2) 農薬(慣行基準:17成分)

	名称	化学農薬成分数 (流通規格あたり)	使用回数	成分量
農薬 (成分)	タチガレ粉剤	1成分	1	1
	テラガード粒剤	3成分	1	3
	スタークル箱粒剤	1成分	1	1
	コトップ粒剤5	1成分	1	1
	種子消毒剤	2成分	1	2
	計			8
削減割合				53 %

2 10aあたり収支比較

	特別栽培	慣行栽培
収量 (kg / 10a)	480	538
販売価格 (円 / 60kg)	15,000	13,500
粗収益 (円)	120,000	121,050
費用 (円)	17,331	16,013
差引 (円)	102,669	105,037

特別栽培収量は、農家聞き取り実収。慣行栽培収量は管内統計値。
販売価格は産地買取価格。

特別栽培をすれば収量が8%落ち、価格は9%上がるが、農薬代は減るものの肥料代が増えて手間ひまをかけた割には採算が合っていない。

(2) 園芸特産産地育成プロジェクト支援事業

前述の年報では「夏秋きゅうり防虫ネット被覆栽培による生産安定」について、以下のような記載がある。

設置目的 夏秋きゅうり防虫ネット被覆栽培を導入し、収量・品質の向上による経営の安定化を図る。
実証施設 防虫ネット被覆栽培の施設概要 間口 7.2m × 長さ 40.5m = 291.6 m ² (22.2 mm) 防虫ネット 1 mm 目合

調査結果の概要（主なもの）

実証区の収穫期間は10月15日までのべ114日間となり、慣行区よりも14日間長かった。10a当たり収量は慣行区が7,985 kg/10aに対して、実証区は13,086 kg/10aと多かった。

達観による病害虫の発生程度は、実証区はウィルス病の発生が皆無であった。

実証圃の産地育成への効果

郡山市のきゅうり栽培における防虫ネット被覆栽培の導入は、普通露地栽培よりも長期安定出荷が見込め、きゅうり経営において所得の向上を図ることができる。

本施設の導入にあたっては労力、土地条件、栽培面積、導入経費等を考慮した中で、各生産者・方部において検討を図ることが必要である。また、産地拡大及び面的拡大等の促進を図る観点から、関係機関においては県単補助事業等を活用した効率的導入及び事業活用を前提とした推進を今後進めることが重要である。

調査結果の概要に記載はないが、防虫ネット被覆栽培によると農薬散布が少なく済むほか、きゅうり周辺の風が弱くなることで湿度が確保され、きゅうりのなる枝の発生促進効果、葉ツヤ維持効果があることにより収穫量が多くなる。さらに、きゅうりが互いに擦れる可能性が小さくなるので、擦れることによるスレ果の発生が少なくなるため、出荷数量も多くなる効果がある。以上のような効果が確認されているが、防虫ネットの設置費用やきゅうりの単価が示されていない。

防虫ネットの設置費用は、JAすかがわ岩瀬営農経済部などが作成したパンフレット「あなたも『夏秋きゅうり防虫ネット被覆栽培』を導入して生産の安定・きゅうり経営の向上を実現しませんか！！」によると、防虫ネットの設置費用は10aあたり90万円～100万円とされている。また、実証期間中のきゅうりの単価は184円/kgとされている。これらをもとに防虫ネットの収支計算をすると、次のとおりである。

防虫ネットの設置費用 100万円

収入増 $5,101 \text{ kg}/10\text{a} \times 184 \text{ 円}/\text{kg} = 938,584 \text{ 円}$

差引 マイナス 61,416円

実証年度は、きゅうりの単価が例年より高かったこともあり、数年間使える防虫ネット設置費用をほぼ1年で回収できたことになる。さらに、ウィルス病が発生した場合、収量がゼロになる可能性があることを考慮すると、導入による効果は充分ある。

県南農林事務所

(1) ふくしま型有機栽培・特別栽培

県南農林事務所の「農業振興普及年報」には肥料、農薬の使用料のみが記載され、金額は記載されていないが、県南農林事務所が作成した実証圃・対照圃の比較表は次のとおりである。

有機・特別栽培と慣行栽培の比較表(作物名:水稲)

1 10aあたり費用(流通経費、償却費、諸材料費、動力光熱費等は除く)

費用	名称	規格・単位	単価	有機栽培		特別栽培		慣行栽培(参考)	
				使用量	金額	使用量	金額	使用量	金額
種苗費	コシヒカリ(消毒済種子)	1kg	600		0		0	2.7kg	1,620
	コシヒカリ(未消毒種子)	1kg	541	1.26kg	682	1.12kg	606		0
					0		0		0
小計					682		606		1,620
肥料費 (土改材を含む)	コシヒカリ専用865	20kg	3,234		0		0	40kg	6,468
	バイオ有機S	20kg	2,688	60kg	8,064		0		0
	イセグリーン	15kg	200		0	300kg	4,000		0
	米ぬか(抑草資材)	15kg	483	150kg	4,830		0		0
	ミネグリーン	18kg	945		0		0	90kg	4,725
小計					12,894		4,000		11,193
農薬費	育苗時殺菌剤(タカレース液)	500ml	3,213		0		0	20ml	129
	移植時殺菌剤(デシタルコトツ)	1kg	2,972		0		0	1kg	2,972
	本田除草剤(トップガンフロアブル)	500ml	2,762		0		0	500ml	2,762
	本田除草剤(バサラン粒剤)	3kg	2,541		0		0	3kg	2,541
	本田殺菌剤(コトツ粒剤)	3kg	1,670		0		0	3kg	1,670
	本田殺虫剤(Mr.ジョーカー粉剤)	3kg	977		0		0	3kg	977
	本田除草剤(オークスフロアブル)	500ml	1,400		0	500ml	1,400		0
小計					0		1,400		11,051
その他					0		0		0
					0		0		0
小計					0		0		0
合計					13,576		6,006		23,864

その他には、アイガモ、紙マルチなど肥料・農薬の削減に係る資材を記載する。

特別栽培における化学肥料・農薬の削減割合

(100 - (実証圃での化学肥料・農薬使用量 / 慣行基準の使用量 × 100))

注1) 肥料(慣行基準: 6kg / 10aあたり)

	名称	窒素分量(kg) (流通規格あたり)	うち有機質由来 窒素分量(kg)	使用量	総窒素量	有機由来 窒素量
肥料 (窒素成分のみ)	イセグリーン	0.435/15kg	0.435/15kg	300kg	8.7kg	8.7kg
	計				8.7kg	8.7kg
削減割合					100%	

注: 「イセグリーン」には化学成分由来の窒素は含まれていない。

注2) 農薬(慣行基準:18成分)

	名称	化学農薬成分数 (流通規格あたり)	使用回数	成分量
農薬 (成分)	オークスフロアブル	4成分	1	4
		成分		0
		成分		0
	計			4
削減割合			78%	

2 10aあたり収支比較(H20)

	有機栽培	特別栽培	慣行栽培
収量(kg/10a)	240	360	570
販売価格(円/60kg)	24,000	16,300	13,500
粗収益(円)	96,000	97,800	128,250
費用(円)	13,576	6,006	23,864
差引(円)	82,424	91,794	104,386

販売価格が不明のため県北と同じとした。

(2) 園芸特産産地育成プロジェクト支援事業

防虫ネット被覆によるトマト黄化葉巻病対策

「農業振興普及年報」には、詳細な記載はないが、「平成20年度園芸特産産地育成プロジェクト支援事業実績報告書」によるとその事業の概要は以下のとおりである。

目的

平坦地を中心にこれまで普及していたラノーテープ等の化学農薬の効果が低下しているため、効果的な病害虫防除対策を多くの生産者が望んでいる。平成19年3月に管内においてタバココナジラミバイオタイプQが確認されたため、黄化葉巻病蔓延防止対策の一環として夏秋トマトでのコナジラミ防除体系を早急に組み立てていく必要がある。

設置面積

10a

設置費用

46,000円(2.5a)

その他に稼働させなかったが循環扇26,000円であった。

実施結果

収量には慣行区と変化はなかった。

実証結果

夏秋トマトの簡易パイプハウス栽培において0.4×0.3mm目合いの防虫ネットを側面及び妻面入口に被覆した結果、害虫の発生は認められなかった。ネット区においても慣行区と同様の化学農薬による防除を行ったことで、夏秋期の主要害虫であるコナジラミ類及びハモグリバエ類の発生を完全に抑えることが可能となった。

この実証圃は、防虫ネットを活用した夏期ビニールハウスの側面部分を

開けるときの防虫システムである。なお、そのとき、防虫ネットをすることによりハウス内の温度が上昇するのを防ぐために天井にも遮光資材を使用する方法である。

収量が変わらずに防虫ネット等の費用がかさむだけとなるが、コナジラミ等が発生すれば収穫がゼロになる可能性があるため、それらの病害虫の発生を防止する点で効果が確認されている。

(3) 飼料用稲

県南農林事務所は、県南地方「ふくしま水田農業改革実践プログラム」に基づき飼料用稲作付面積の拡大を図っている。平成 19 年度実績は 26ha、平成 20 年度実績は 115ha（飼料用米 23ha 含む。）と掲げられた平成 22 年度目標の 66ha を大幅に上回っている。

農事組合法人「鶴生ライスグロウイング」を核とした水稲直播栽培及び WCS 用稲栽培の取組みを報告書としてまとめている。その報告書によると、WCS 用稲の栽培面積は 8.6ha、収穫量（見込み）は 18 t、10a あたり 2,109 kg であり、水稲栽培方式は直播栽培である。

稲 WCS の刈り取りには専用機械を必要とするが、刈り取り作業は JA しらかわ等に委託している。

稲 WCS の収支表は次のとおりである。

	項目	金額（円/10a）
収入	稲 WCS 販売代金	33,000
	産地づくり交付金	31,000
	産地づくり交付金（団地加算）	14,000
	その他の助成金（耕畜連携水田活用対策他）	16,000
	合計	94,000
支出	栽培管理費	32,275
	収穫調整費	18,249
	合計	50,524
	差引所得	43,476

差引所得 43,476 円は、水田稲作における福島県平均と同程度である。

会津農林事務所

(1) 有機栽培技術実証圃（水稲）

会津農林事務所には県有機農産物推進担当が配置されている。

有機栽培実証圃（水稲）は「農業改良普及年報」によれば4つあり、以下のとおりである。

会津若松市門田町
栽培技術の特徴

前歴	平成18年	平成19年	平成20年
平成18年以前の管理状況 平成15年より全量有機質肥料で栽培 (品種) 五百万石	基肥:まもるくん80kg 追肥:なし 育苗:塩水選 ビニールハウス内 平置き 3.7葉苗15.9株/m ² 除草:紙マルチ栽培	同左 同左 秋肥(鶏糞45kg)・秋耕 春:サンラテール200kg 同左+湯温消毒 露地プール育苗 3.9葉苗15.9株/m ² 同左+別圃場でコイ除草	同左 同左 同左 同左 同左 同左 3.5葉苗15.6株/m ² 同左

肥料は紙マルチ栽培圃場の10aあたり施用量

結果の概要

項目	平成18年	平成19年	平成20年
収量(/10a)	377kg(慣行643)	445kg コイ331kg (慣行651)	505kg コイ408kg
(収量構成要素)	穂数198本/m ² (慣行382) 特等 タンパク質7.9% (サタケ)	穂数217本/m ² (慣行339) 1等 タンパク質7.6% (サタケ)	穂数240本/m ² 1等 タンパク質6.8% (サタケ)
雑草の発生	抑草された	同左	同左
病害の発生	イネミズゾウムシ食害少 葉いもち微、穂いもち微 カメムシ発生:畦際等で微	イネミズゾウムシ食害少 葉いもち微、穂いもち微 カメムシ発生:畦畔で微	イネミズゾウムシ食害微 葉いもち微、穂いもち無 カメムシ発生:雑草地で微

紙マルチ栽培圃場の結果。ただし 内はコイ除草の結果

喜多方市熱塩加納町

栽培技術の特徴

前歴	平成18年	平成19年	平成20年
平成18年以前の管理状況 平成14年から有機栽培を開始	基肥:オーガニック853 60kg 追肥:古代天然苦土 20kg オーガニック742 10kg オーガニック742 10kg - 秋肥:発酵鶏糞 140kg 春肥:古代天然苦土 45kg ハーモニーシエル 100kg 育苗:塩水選 種籾温湯消毒(60 10分) 自家培土(ぼかし混和) 保温折衷苗代 3.6葉苗16.8株/m ²	同左 同左 オーガニック742 20kg SGR 20kg ホタテパワー 20kg 同左 古代天然苦土 60kg ハーモニーシエル 60kg 同左 種籾酵素水溶液浸漬 同左 同左 同左 3.6葉苗18.2株/m ²	同左 - - SGR 10kg 同左 発酵鶏糞 70kg 同左 ハーモニーシエル 100kg 同左 同左 自家培土(オーガニック742混和) 同左 同左 3.3葉苗15.2株/m ²
(品種) コシヒカリ	除草:紙マルチ栽培	同左	同左

肥料は 10a あたり施用量

結果の概要

項目	平成18年	平成19年	平成20年
収量(/10a)	503kg(慣行479)	332kg(慣行440)	535kg
(収量構成要素)	穂数291本/m ² (慣行457) 1等 食味値78(サタケ)	穂数321本/m ² (慣行272) 1等 食味値79(サタケ)	穂数337本/m ² 1等 食味値87(サタケ)
雑草の発生	抑草された	同左	同左
病害の発生	イネミズゾウムシ食害少 葉いもち微、穂いもち微少 カメムシ発生:畦際等で微	イネミズゾウムシ食害微 葉いもち少中、穂いもち中 カメムシ発生:畦畔等で微	イネミズゾウムシ食害少 葉いもち微、穂いもち少 カメムシ発生:畦畔等で少

会津坂下町新開津

栽培技術の特徴

前歴	平成18年	平成19年	平成20年
平成18年以前の管理状況 平成13年に有機JAS認定取得	基肥:なたね油粕 40kg 追肥:なたね油粕 40kg + 20kg 秋肥:もみ殻 + 米ぬか たい肥2t 育苗:風選、温湯消毒 ビニールハウス内 平置き 3.1葉苗16.3株/m ²	同左 追肥:なたね油粕 20kg 同左 同左 同左 同左 3.5葉苗17.7株/m ²	ワールドエース 140kg 同左 同左 同左 同左 同左 3.1葉苗17.7株/m ²
(品種) コシヒカリ	除草:米ぬか + 機械除草	紙マルチ	同左

肥料は 10a あたり施用量

結果の概要

項目	平成18年	平成19年	平成20年
収量 (/10a)	321kg (特裁500)	513kg (特裁549)	433kg
(収量構成要素)	穂数174本/m ² (特裁307) 1等 食味値89(サタケ)	穂数306本/m ² (特裁310) 1等 食味値84(サタケ)	穂数258本/m ² 1等 食味値88(サタケ)
雑草の発生	残草多い	抑草された	同左
病害の発生	イネミスゾウムシ食害微 葉いもち無、穂いもち無 カメムシ発生:畦畔で微	イネミスゾウムシ食害微 葉いもち無、穂いもち微 カメムシ発生:畦畔等で微	イネミスゾウムシ食害微 葉いもち無、穂いもち無 カメムシ発生:畦畔等で微

只見町叶津

栽培技術の特徴

前歴	平成19年	平成20年
平成18年以前の管理状況慣行栽培	第1圃場 基肥:有機アグレット 50kg 追肥:有機アグレット 12kg 秋肥:米糠60kg 鶏糞45kg 第2圃場 基肥:有機アグレット 20kg 追肥:なし 秋肥:米糠60kg 鶏糞45kg	第1圃場 基肥:有機アグレット 20kg 追肥:なし 秋肥:米糠60kg 春肥:油粕45kg 第2圃場 基肥:有機アグレット 50kg 追肥:なし 秋肥:同左
(品種)コシヒカリ	育苗:ビニールハウス平置き 3.6葉苗16.3株/m ² 除草:第1圃場:米糠 第2圃場:油粕	同左 3.5葉苗16.3株/m ² 第1圃場:油粕 第2圃場:米糠 (第1圃場ではコイを田植1か月後に投入)

肥料は 10a あたり施用量

結果の概要

項目	平成19年	平成20年
収量 (/10a)	第1圃場 422kg (慣行554) 第2圃場 534kg (")	第1圃場 460kg 第2圃場 540kg
(収量構成要素)	第1圃場 穂数196本/m ² (慣行) 1等 食味値81(サタケ) 第2圃場 穂数290本/m ² (慣行374) 1等 食味値78(サタケ)	第1圃場 穂数212本/m ² 1等 食味値85(サタケ) 第2圃場 穂数196本/m ² 2等 食味値77(サタケ)
雑草の発生	米糠、油粕除草ともコナギ、オモダカ残草	同左
病害の発生	第1圃場 イネミスゾウムシ食害微少 葉いもち無、穂いもち微 カメムシ発生:畦際で微	第1圃場 イネミスゾウムシ食害無 葉いもち微、穂いもち無 カメムシ発生:畦際等で微

会津農林事務所の「農業改良普及年報」には肥料、農薬の使用量のみが記載され、金額は記載されていないが、会津農林事務所が作成した実証圃・対照圃の比較表（只見町の有機栽培及び猪苗代町の特別栽培の実証圃の事例）は次のとおりである。

有機・特別栽培と慣行栽培の比較表（作物名：水稲）

1 10aあたり費用（流通経費、償却費、諸材料費、動力光熱費等は除く）

(1)有機栽培（只見町）

費用	名称	規格・単位	単価	有機栽培(第1圃場)		有機栽培(第2圃場)		慣行栽培	
				使用量	金額	使用量	金額	使用量	金額
種苗費	未消毒種子	1kg	478	4kg	1,912	4kg	1,912		0
	消毒種子	1kg	510		0		0	4kg	2,040
小計					1,912		1,912		2,040
肥料費 (土改材を含む)	有機アグレット666	20kg	2,100	62kg	6,510	20kg	2,100		0
	オール14	20kg	1,008		0		0	25kg	1,260
	塩化加里	20kg	1,250		0		0	20kg	1,250
	過りん酸石灰	20kg	998		0		0	20kg	998
	鶏糞	15kg	500	45kg	1,500	45kg	1,500		0
	ケイカリン	20kg	2,048		0		0	20kg	2,048
	米糠(兼抑草資材)	15kg	300	200kg	4,000		0		0
	油粕(兼抑草資材)	20kg	750		0	150kg	5,625		0
小計					12,010		9,225		5,556
農薬費	イーバー-DXアツプ1キロ剤	1kg	2,814		0		0	1kg	2,814
	マメツ3キロ剤	3kg	1,838		0		0	3kg	1,838
	クリンチャー1キロ剤	1kg	1,302		0		0	1kg	1,302
	デラウスプリンス剤	1kg	3,171		0		0	1kg	3,171
	ヒノバイツツ3キロ剤	3kg	935		0		0	3kg	935
	フランショーカーF剤	500ml	4,568		0		0	70ml	640
小計					0		0		10,700
合計					13,922		11,137		18,296

(2)特別栽培(猪苗代町)

費用	名称	規格・単位	単価	特別栽培実証ほ(猪苗代)			
				特別栽培		慣行栽培	
				使用量	金額	使用量	金額
種苗費	未消毒種子	1kg	478	4kg	1,912		0
	消毒種子	1kg	510		0	4kg	2,040
小計					1,912		2,040
肥料費 (土改材を含む)	過りん酸石灰	20kg	998	25kg	1,248		0
	ケイカリン	20kg	2,048		0	60kg	6,144
	会津うまい米専用	20kg	2,056	28kg	2,878		0
	いろどり有機	20kg	2,783	30kg	4,175		0
	会津エコ米一発	20kg	2,657		0	44kg	5,845
小計					8,301		11,989
農薬費	エコホープDJ	100g	1,040	40g	416		0
	テラガード1キロ剤	1kg	2,887	1kg	2,887		0
	ブイゲットプリンス	1kg	3,098	1.25kg	3,873		0
	コラトップ粒剤	3kg	1,680	3kg	1,680		0
	MR.ジョーカー粉剤	3kg	1,092	3kg	1,092	3kg	1,092
	タチガレエース液剤	500ml	3,020		0	25ml	151
	ダコニール1000	500ml	1,430		0	25ml	72
	デジタルコラトップ	1kg	3,000		0	1.3kg	3,900
	トレディプラス粒剤	1kg	2,430		0	1kg	2,430
	アチーブ粒剤	3kg	1,920		0	3kg	1,920
小計					9,948		9,565
合計					20,161		23,594

特別栽培における化学肥料・農薬の削減割合

(100 - (実証圃での化学肥料・農薬使用量 / 慣行基準の使用量 × 100))

注1) 肥料(慣行基準 9kg / 10aあたり)

	名称	窒素成分量(kg) (流通規格あたり)	うち有機質由来 窒素成分量(kg)	使用量	総窒素 量	有機由 来
肥料 (窒 素成分 のみ)	会津うまい米専用	3/20kg	0/20kg	28kg	4.2kg	0kg
	いるどり有機	2/20kg	2/20kg	30kg	3kg	3kg
	計				7.2kg	3kg
削減割合					53 %	

注2) 農薬(慣行基準:16成分)

	名称	化学農薬成分数 (流通規格あたり)	使用 回数	成分量
農 薬 (成分)	エコホープDJ	0 成分	1	0
	テラガード1キロ剤	3 成分	1	3
	ブイゲットプリンス	2 成分	1	2
	コラトップ粒剤	1 成分	1	1
	MR.ジョーカー粉剤	1 成分	1	1
	計			7
削減割合				56 %

2 10aあたり収支比較

	有機栽培(只見町)			特別栽培(猪苗代町)	
	有機栽培(第1圃場)	有機栽培(第2圃場)	慣行栽培	特別栽培	慣行栽培
収 量 (kg / 10a)	422	534	554	590	600
販売価格 (円 / 60kg)	36,000	36,000	16,000	14,000	12,463
粗 収 益 (円)	253,200	320,400	147,233	137,667	124,630
費 用 (円)	13,922	11,137	18,296	20,161	23,594
差 引 (円)	239,278	309,263	128,937	117,506	101,036

水稻品種は、只見町の有機栽培はコシヒカリ、猪苗代町の特別栽培はひとめぼれ

費用は、有機栽培、特別栽培、慣行栽培の違いを示すものであり、全ての費用を計上しているものではない。

有機栽培米の販売価格は当該実証圃農家からの聞き取りによるものであり、標準的な価格よりは高いと思われる。

(2) 有機栽培技術実証圃(そば)

費用	名称	規格 ・単位	単価	有機栽培 (緑肥のみ)		有機栽培 (緑肥+PK)		有機栽培 (緑肥+鶏糞)		慣行栽培	
				使用量	金額	使用量	金額	使用量	金額	使用量	金額
種苗費					0		0		0		0
					0		0		0		0
					0		0		0		0
	小計				0		0		0		0
肥料費 (土 改 材を 含 む)	堆肥	15kg	578		0		0	45kg	1,734		
	化成肥料	20kg	1,481		0		0		0	40kg	2,962
	土壌改良材	20kg	2,056		0	20kg	2,056		0		0
	緑肥(屑大豆)	1kg	42	20kg	840	20kg	840	7kg	294		0
	小計				840		2,896		2,028		2,962
農薬費					0		0		0		0
					0		0		0		0
					0		0		0		0
	小計				0		0		0		0
その他	燃料費	軽油 1ℓ	115	22ℓ	2,530	23ℓ	2,645	23ℓ	2,645	12ℓ	1,380
	労働費	1h	1,250	3.2h	4,000	3.3h	4,125	3.3h	4,125	1.4h	1,750
					0		0		0		0
					0		0		0		0
小計				6,530		6,770		6,770		3,130	
合計					7,370		9,666		8,798		6,092

2 10aあたり収支比較

	有機栽培(緑肥のみ)	有機栽培 (緑肥+PK)	有機栽培 (緑肥+鶏糞)	慣行栽培
収量(kg/10a)	100	100	100	90
販売価格(円/kg)	400	400	400	400
粗収益(円)	40,000	40,000	40,000	36,000
費用(円)	7,370	9,666	8,798	6,092
差引(円)	32,630	30,334	31,202	29,908

(単位:円/100a)

項目	実 証 圃			慣行栽培	備 考
	緑肥のみ	緑肥+PK	緑肥+堆肥		
種 苗 費	0	0	0	0	・ソバ種子は自家採取種子使用のため、種子代は未計上
肥料費(堆肥)	0	0	17,340	29,620	・堆肥は市販の鶏ふん堆肥 (試算単価:578円/15kg)
土壌改良材費	0	20,560	0	0	・慣行栽培の肥料は市販の化成肥料 (試算単価:1,481円/20kg)
緑 肥 経 費	8,400	8,400	2,940	0	・緑肥経費は屑大豆の購入経費 (試算単価:42円/kg)
農 薬 費	0	0	0	0	・燃料費は主にトラクター、汎用コンバイン の軽油代(試算単価:115円/)
燃 料 費	25,300	26,450	26,450	13,800	・労働費はオペレーター単価に作業時間を 乗じて算出(試算単価:1,250円/h)
労 働 費	40,000	41,250	41,250	17,500	・機械装置の洗浄、清掃時間も労働費に 計上
出荷調整経費	-	-	-	-	・運搬、乾燥、調整に掛かる経費及び機械 費(減価償却費・修理費)、流通経費は各栽 培方法とも共通であるため未計上
機 械 費	-	-	-	-	
流 通 経 費	-	-	-	-	
合計(参考)	73,700	96,660	87,980	60,920	

緑肥:屑大豆 PK:リン酸カリ

項目	実証圃			慣行栽培	備考
	緑肥のみ	緑肥 + PK	緑肥 + 堆肥		
収穫量 (kg)	1,000	1,000	1,000	900	・収穫量は実証圃3か年の平均値 ・販売単価は、同地域実績を参考
単価 (円 / kg)	400	400	400	400	
粗 収 益	400,000	400,000	400,000	360,000	
経費(共通部分以外)	73,700	96,660	87,980	60,920	
所得(参考)	326,300	303,340	312,020	299,080	
10a当たり所得	32,630	30,334	31,202	29,908	

収穫量は実証圃のほうが慣行栽培より多く、単価は同じである。

相双農林事務所

(1) 水稲有機栽培

相双農林事務所の「農業普及年報」では水稲有機栽培の実証圃の結果を以下のとおり記載している。

3 回代かき、屑大豆散布、チェーン除草の組み合わせによる抑草対策の検討を行った。実証圃の土性が砂壤土であり還元層、水田の濁りが持続しないため、これらの組み合わせでは十分な抑草効果が得られなかった。単収は 252 kg/10a で慣行栽培比 45%にとどまった。

また、カメムシ類による被害により出荷米の 30%が 2 等となった。野焼き、こまめな畦畔草刈り等の耕種的防除だけでは防除効果が不十分であった。

施肥	発酵鶏糞、グアノリン酸、稲わら、有機質肥料 有機質由来肥料 = 1.27 kg
抑草対策	3 回代かき、屑大豆散布、チェーン除草（3 回）、深水管理
カメムシ対策	野焼き、畦畔草刈り（6 回）

雑草が繁茂した場合には、チェーン除草だけでは十分な抑草効果がなかったため、機械除草との組み合わせによる除草体系が必要である。

(2) 水稲特別栽培

同様に普及年報で水稲特別栽培の実証圃の結果を以下のとおり記載している。

JA そうまの特別栽培基準に沿った栽培とプール育苗を導入した健苗育成の実証を行った。プール育苗導入で立枯病やムレ苗の被害が少ない均質な苗が得られた。また、実証圃は、昨年倒伏程度から窒素成分を 4 kg/10a に抑えた設計でスタートしたが葉色が淡く、茎数、穂数が少なく経過した。そのため単収 518 kg/10a(慣行比 92%)と慣行栽培に比較しやや劣ったが、品質は良好であった。3 か年を通じて技術的課題は少なく、充分普及可能な栽培法である。

普及年報には肥料、農薬の使用量のみが記載され、金額は記載されていないが、相双農林事務所が作成した実証圃・対照圃の比較表は次のとおりである。

特別栽培と慣行栽培の比較表(作物名:水稲)

1 10aあたり費用(流通経費、償却費、諸材料費、動力光熱費等は除く)

費用	名称	規格 ・単位	単価	特別栽培		慣行栽培	
				使用量	金額	使用量	金額
種苗費	コシヒカリ種子(消毒済み)	1 kg	536		0	3kg	1,608
	コシヒカリ種子(未消毒)	1 kg	504	1.7kg	857		0
					0		0
小計					857		1,608
肥料費 (土改 材を含 む)	ケイカリン	20 kg	2,237	60kg	6,711	60kg	6,711
	リンスター30	20 kg	2,069	20kg	2,069		0
	液肥源	2 kg	441	2kg	441		0
	粒状培土	20 kg	788		0	50kg	1,970
	セーフティー発	20 kg	2,636	40kg	5,272		0
	基肥一発コシヒカリ	20 kg	4,547		0	33kg	7,503
	JAそうまエコ追肥208	20 kg	2,100	10kg	1,050		0
	塩化加里	20 kg	2,636		0	7kg	923
小計					15,543		17,107
農薬費	ダコニール1000	500 ml	1,691		0	20ml	68
	タチガレース液剤	500 ml	3,780		0	20ml	151
	デジタルコソトップアクトラ箱粒剤	1 kg	3,098	0.85kg	2,633	1kg	3,098
	クサトリ-DX110粒剤75	1 kg	3,098	1kg	3,098	1kg	3,098
	スターカル粉剤DL	1 kg	1,292	1kg	1,292	1kg	1,292
小計					7,023		7,707
その他	プール育苗資材費				768		0
					0		0
小計					768		0
合計					24,191		26,422

特別栽培実証ほ:自作培土使用。

特別栽培における化学肥料・農薬の削減割合

(100 - (実証ほでの化学肥料・農薬使用量 / 慣行基準の使用量 × 100))

注1)肥料(慣行基準 6kg / 10aあたり)

	名称	窒素成分量(kg) (流通規格あたり)	うち有機質由来 窒素成分量(kg)	使用量	総窒素量	有機由来 窒素量
肥料 (窒 素成 分の み)	セーフティー発	2/20kg	1.02/20kg	40kg	4kg	2.04kg
	JAそうまエコ追肥028	2/20kg	1.08/20kg	10kg	1kg	0.54kg
	稚苗用液肥源	0.3/2kg	0/2kg	2kg	0.3kg	0kg
	計				5.3kg	2.58kg
				削減割合	54.0 %	

注2)農薬(慣行基準:18成分)

	名 称	化学農薬成分数 (流通規格あたり)	使用回数	成分量
農 薬 (成分)	デジタルコラトップアクトラ箱粒剤	2 成分	1	2
	クサトリ-DX1特粒剤75	3 成分	1	3
	スタークル粉剤DL	1 成分	1	1
	計	成分		6
		削減割合	66.0 %	

2 10aあたり収支比較

	特別栽培	慣行栽培
収 量 (kg / 10a)	518	563
販売価格 (円 / 60kg)	11,500	11,000
粗 収 益 (円)	99,283	103,217
費 用 (円)	24,191	26,422
差 引 (円)	75,092	76,795

慣行栽培:成績書で示した作柄判定ほの収量を示した。

特別栽培米は収量も8%落ち、販売価格も1俵あたり500円高いだけである。しかしながら、相双地区の米は通常売れ残りが生じることがあるが、特別栽培米であれば売り切れるというメリットがある。

相双地区は、米の生産調整を100%クリアしている。この理由は、相双農林事務所や市町村及びJAそうまの指導体制が整っていることが原因である。水田には「グリーンベルト形成プロジェクト」により園芸作物の振興を図っている。

2 農林事務所ごとの農業関係資料比較

「福島県の農業及び政策」に福島県全体の農業関係資料を掲載しているが、各農林事務所及び普及所（以下「農林事務所等」という。）の農業関係資料の比較をする。

(1) 各農林事務所等の農家数、耕地面積、農業産出額

	農家数 (戸)	耕地面積 (ha)	農業産出額 (千万円)	農家1戸あたり	
				耕地面積 (ha/戸) B/A	農業産出額 (万円/戸) C/A
	A	B	C		
県全体	104,423	153,200	25,000	1.47	239
県北農林事務所	9,116	8,989	2,320	0.99	254
伊達農業普及所	7,903	6,710	1,975	0.85	250
安達農業普及所	8,201	10,490	1,486	1.28	181
県中農林事務所	8,396	13,300	1,884	1.58	224
田村農業普及所	7,139	9,020	1,444	1.26	202
須賀川農業普及所	10,332	17,110	3,005	1.66	291
県南農林事務所	10,209	18,104	3,092	1.77	303
会津農林事務所	5,113	11,139	1,507	2.18	295
喜多方農業普及所	6,057	10,047	1,415	1.66	234
会津坂下農業普及所	6,297	10,481	1,476	1.66	234
南会津農林事務所	3,665	4,035	510	1.10	139
相双農林事務所	8,138	16,055	2,543	1.97	312
双葉農業普及所	5,292	8,733	1,219	1.65	230
いわき農林事務所	8,565	8,980	1,127	1.05	132

農家数は農林業センサスより、耕地面積は福島農林水産統計年報より、農業算出額は生産農業所得統計より、それぞれ平成17年の市町村別データを集計したもの。なお、耕地面積は、端数処理の関係などで合計が県全体の計と一致しない。また、生産農業所得統計の農業算出額は、市町村別の合計と県全体の額が推計方法の違いがあるために一致しないとされている。

農家1戸あたりの耕地面積が一番広いのは会津の2.18ha、一番狭いのは果樹農家の多い伊達、次が県北のそれぞれ0.85ha、0.99haである。

また、農家1戸あたりの農業産出額が一番多いのは相双の312万円、一番少ないのはいわきで132万円である。

(2) 農地の利用状況

農林事務所等別農地の状況

(単位:ha, %)

	作付 延べ面積	耕作 未利用地	耕地面積	耕作 放棄地	農地計	農地 未利用地	耕作地 未利用 率	耕作 放棄率	農地未 利用率
	A	B	C(A+B)	D	E(C+D)	F(B+D)	B/C	D/E	F/E
県北	8,026	963	8,989	1,610	10,599	2,573	10.7%	15.2%	24.3%
伊達	6,145	565	6,710	1,049	7,759	1,614	8.4%	13.5%	20.8%
安達	8,740	1,750	10,490	2,661	13,151	4,411	16.7%	20.2%	33.5%
県中	11,400	1,900	13,300	1,034	14,334	2,934	14.3%	7.2%	20.5%
田村	6,954	2,066	9,020	1,621	10,641	3,687	22.9%	15.2%	34.6%
須賀川	14,690	2,420	17,110	1,822	18,932	4,242	14.1%	9.6%	22.4%
県南	15,690	2,414	18,104	1,499	19,603	3,913	13.3%	7.6%	20.0%
会津	10,408	731	11,139	304	11,443	1,035	6.6%	2.7%	9.0%
喜多方	9,252	795	10,047	777	10,824	1,572	7.9%	7.2%	14.5%
会津坂下	9,458	1,023	10,481	420	10,901	1,443	9.8%	3.9%	13.2%
南会津	3,386	649	4,035	574	4,609	1,223	16.1%	12.5%	26.5%
相双	13,620	2,460	16,080	1,099	17,179	3,559	15.3%	6.4%	20.7%
双葉	6,981	1,752	8,733	705	9,438	2,457	20.1%	7.5%	26.0%
いわき	7,190	1,790	8,980	967	9,947	2,757	19.9%	9.7%	27.7%
県全体	131,900	21,300	153,200	16,141	169,341	37,441	13.9%	9.5%	22.1%

- 1 作付延べ面積及び耕作未利用地は福島農林水産統計年報より、耕作放棄地は農林業センサスより、それぞれ平成 17 年の市町村別データを集計したもの。なお、端数処理の関係などで合計が県全体の計と一致しない。
- 2 この表では、農地 = 農地耕地面積 + 耕作放棄地
耕地面積 = 作付延べ面積 + 耕作未利用地 として作成している。

農地未利用率

会津、会津坂下、喜多方はそれぞれ 9.0%、13.2%、14.5%と低くなっており、農地利用率が高い。

安達、田村はそれぞれ 33.5%、34.6%と高くなっている。

(3) 農林事務所等ごとの農業産出額の一覧

農業産出額の平成 17 年と平成 12 年の比較表は次のとおりである。

農林事務所等ごとの農業算出額の比較

農林事務所等	平成17年 (千万円)	平成12年 (千万円)	増減 (千万円)	増減率 (%)	農業産出額 のうち米の 占める割合 (%)	田の耕地面積 1haあたりの米 の農業産出額 (千円)
県北	2,320	2,520	200	7.9%	14.7%	870
伊達	1,975	2,244	269	12.0%	14.1%	898
安達	1,486	1,645	159	9.7%	39.0%	899
県中	1,884	2,034	150	7.4%	56.6%	1,015
田村	1,444	1,540	96	6.2%	22.1%	698
須賀川	3,005	3,358	353	10.5%	39.4%	964
県南	3,092	3,012	80	2.7%	39.1%	982
会津	1,507	1,650	143	8.7%	67.9%	1,086
喜多方	1,415	1,541	126	8.2%	69.7%	1,195
会津坂下	1,476	1,614	138	8.6%	66.7%	1,155
南会津	510	541	31	5.7%	48.6%	891
相双	2,543	2,188	355	16.2%	37.7%	774
双葉	1,219	1,369	150	11.0%	35.4%	691
いわき	1,127	1,262	135	10.7%	45.7%	778
合計	25,000	26,510	1,510	5.7%		

農業算出額は平成 17 年の生産農業所得統計より市町村別データを集計したもの。「田の耕地面積 1ha あたりの米の農業算出額」は、福島農林水産統計年報の平成 17 年の市町村別データを集計した面積を用いて算出したもの。なお、生産農業所得統計の農業算出額は、市町村別の合計と県全体の額が推計方法の違いがあるために一致しないとされている。

県内の農業産出額は平均で 5.7%の減少である。

農業産出額に占める米の割合が高いところは、田の耕地面積 1ha 当たりの米の農業産出額も大きい。喜多方 1,195 千円、会津坂下 1,155 千円、会津 1,086 千円、県中 1,015 千円である。

後述するが、相双は米の生産調整を達成したうえで、農業算出額も増加している。

(4) 各農林事務所等の平成 17 年と 12 年の比較増減率

各農林事務所等の項目ごとの減少が大きいもの（ただし自給的農家、専業農家及び畜産の農業算出額は、増加率の大きいもの）は次のとおりである。

なお、詳細は、各データの出典元も含めて「3 農林事務所ごとの農業関係資料」に掲載している。

減少率の大きい上位5つの農林事務所等

（ただし、自給的農家、専業農家及び耕作未利用地については増加率が大きい上位5つ）

	1	2	3	4	5
農家数・農家人口等					
農家数	県中 7.7%	いわき 7.5%	相双 7.3%	会津 7.1%	県北 6.6%
自給的農家()	相双 36.4%	安達 35.6%	田村 32.3%	会津 27.1%	県南 24.6%
販売農家	南会津 15.1%	いわき 15.1%	県北 14.6%	安達 13.2%	県中 13.2%
専業農家()	県中 33.9%	県南 25.2%	双葉 23.2%	南会津 22.9%	会津坂下と喜多方 20.8%
第1種兼業農家	南会津 24.0%	いわき 22.0%	県北 17.7%	喜多方 14.4%	県中 13.1%
第2種兼業農家	会津坂下 21.8%	南会津 20.7%	県北 20.2%	伊達 19.5%	県中 18.6%
農家人口	いわき 16.5%	県中 14.7%	相双 14.2%	県北 14.1%	双葉 13.2%
男	いわき 16.3%	県中 15.0%	県北 14.3%	相双 14.3%	双葉 12.7%
女	いわき 16.8%	県中 14.4%	相双 14.1%	県北 13.9%	双葉 13.8%
耕地面積等					
耕地面積	南会津 9.1%	喜多方 6.3%	県南 5.4%	会津坂下 4.4%	いわき 4.3%
田	喜多方 7.3%	県北 6.3%	安達 6.0%	南会津 5.2%	会津 5.1%
畑	南会津 16.3%	県南 10.2%	県中 9.0%	いわき 8.9%	須賀川 5.7%
作付延べ面積	双葉 7.2%	田村 8.1%	いわき 5.4%	相双 5.2%	県中 5.0%
耕作未利用地	田村 35.7%	双葉 24.2%	相双 23.0%	須賀川 19.4%	安達 5.8%

減少率の大きい上位5つの農林事務所等
(ただし、畜産の農業算出額については増加率が大きい上位5つ)

	1	2	3	4	5
農業産出額					
米	いわき 15.7%	田村 13.6%	安達 12.9%	双葉 12.9%	県北 12.8%
野菜	田村 21.1%	県北 19.2%	須賀川 17.5%	伊達 13.9%	県中 10.7%
果樹	田村 33.3%	県南 22.6%	相双 17.7%	須賀川 16.9%	県中 14.5%
畜産()	県南 36.0%	田村 30.8%	相双 18.8%	会津 9.3%	県中 7.7%
その他	双葉 32.6%	県南 31.4%	南会津 29.8%	田村 29.4%	須賀川 19.7%
計	伊達 12.0%	双葉 11.0%	いわき 10.7%	須賀川 10.5%	安達 9.7%

増加したもの

自給的農家：相双、安達、田村の増加率は30%を超えている。
 専業農家：県中は33.9%と大きく増加している。

減少したもの

第1種兼業農家：南会津、いわきは20%を超えている。

農業産出額

米は、全体で9.0%減少であるが、その中でもいわきの減少率が他の地域と比較するとやや高くなっている。

米の農業産出額の減少率が大きい地域の田の耕地面積の減少率は次のとおりである。

	いわき	田村	安達	双葉	県北
米の農業産出額の減少率	15.7%	13.6%	12.9%	12.9%	12.8%
田の耕地面積の減少率	2.5%	2.8%	6.0%	3.1%	6.3%
差引	13.2%	10.8%	6.9%	9.8%	6.5%

県北及び安達は、田の耕地面積の減少率が大きいですが、その他は田の耕地面積の減少率は小さいにも関わらず、農業産出額が大きく減少している。

野菜は、全体で1.4%減少している。田村が21.1%、県北が19.2%、須賀川が17.5%減少している。この表には記載してないが相双は143.4%と大きく増加している。

果樹は、全体で5.7%減少している。田村が33.3%減少、県南が22.6%減少と大きな減少となっている。しかし、この表では記載してないが、産地の県北は2.8%の減少に留まっている。また、県全体の算出額に占める割合は小さいものの、会津、喜多方、会津坂下、南会津及びいわきでは算出額が増加している。

畜産は、全体で1.1%増加であるが、県南で36.0%増加、田村で30.8%増加と大きく増加している。

(5) 水田農業に関する助成金について

水田農業に関する助成金 上位5つの農林事務所等(平成17年度)

(単位:千万円)

	1	2	3	4	5
農林事務所等	相双	会津	会津坂下	喜多方	双葉
助成金	113	80	66	52	37

米の生産調整に取り組み、目標を達成した農家への助成金であり、県内市町村の平成20年度末の生産調整の取組状況は次のとおりである。

平成20年産米の生産調整の取組状況

市町村名	生産数量目標 (面積換算値) ha	主食用米 作付面積 ha	差引面積 - ha	達成市町村 = %	対比 ÷ %
福島市	2,104	2,401	298		114%
二本松市	2,385	2,219	166		93%
伊達市	1,337	1,328	8		99%
本宮市	1,325	1,355	31		102%
桑折町	386	413	28		107%
国見町	467	412	55		88%
川俣町	453	419	34		93%
大玉村	951	941	10		99%
県北計	9,407	9,490	83		101%
郡山市	5,644	8,286	2,641		147%
須賀川市	2,854	4,788	1,934		168%
田村市	1,865	1,838	27		99%
鏡石町	524	986	462		188%
天栄村	668	876	208		131%
石川町	655	801	146		122%
玉川村	247	365	118		148%
平田村	556	510	46		92%
浅川町	418	518	100		124%
古殿町	376	354	23		94%
三春町	464	411	53		89%
小野町	580	563	17		97%
県中計	14,851	20,296	5,445		137%

市町村名	生産数量目標 (面積換算値) ha	主食用米 作付面積 ha	差引面積 - ha	達成市町村 = ha	対比 ÷ %
白河市	2,485	3,624	1,139		146%
西郷村	628	956	327		152%
泉崎村	458	687	229		150%
中島村	368	534	166		145%
矢吹町	740	1,329	588		179%
棚倉町	649	981	333		151%
矢祭町	274	378	104		138%
塙町	547	640	93		117%
鮫川村	432	353	79		82%
県南計	6,582	9,482	2,900		144%
会津若松市	4,282	4,682	401		109%
喜多方市	5,003	5,583	580		112%
北塩原村	207	207	0		100%
西会津町	691	691	0		100%
磐梯町	415	392	23		94%
猪苗代町	2,112	2,071	41		98%
会津坂下町	2,175	2,428	254		112%
湯川村	889	899	9		101%
柳津町	328	317	11		97%
三島町	55	51	3		94%
金山町	127	123	4		97%
昭和村	209	175	34		84%
会津美里町	2,581	2,704	123		105%
会津計	19,074	20,324	1,250		107%
下郷町	512	503	10		98%
只見町	417	408	9		98%
南会津町	1,113	1,061	52		95%
南会津計	2,042	1,971	71		97%

市町村名	生産数量目標 (面積換算値) ha	主食用米 作付面積 ha	差引面積 - ha	達成市町村 = ha	対比 ÷ %
相馬市	2,194	2,188	7		100%
南相馬市	4,916	4,842	74		98%
広野町	186	185	1		99%
楢葉町	426	418	8		98%
富岡町	557	552	5		99%
川内村	311	283	27		91%
大熊町	613	574	39		94%
双葉町	499	491	7		99%
浪江町	1,277	1,243	34		97%
葛尾村	142	130	12		92%
新地町	665	647	18		97%
飯館村	853	707	146		83%
相双計	12,640	12,261	379		97%
いわき市	3,801	4,611	810		121%
いわき計	3,801	4,611	810		121%
県計	68,397	78,434	10,037	34	115%

郡山市、須賀川市、白河市など、米どころといわれる地域や米の出荷が農協に集中しない地域は生産調整に協力しない度合いが高い。相馬市、南相馬市など農協への集中度が高いところは生産調整に協力している。

相双農林事務所管内は全ての市町村が生産調整を達成している。

3 農林事務所ごとの農業関係資料

「福島県の農政 1 福島県の農業の現況」にある一覧表を農林事務所等ごとに示すと次のとおりとなる。

なお、各データの出典は当該一覧表と同様に、農家数・農家人口等は農林水産省の農林業センサス、耕地面積等は東北農政局福島農政事務所の福島農林水産統計年報、農業算出額は農林水産省の生産農業所得統計、助成金、補助金、認定農業者及びエコファーマーに係るデータは県調べによる。

また、農林事務所等ごとのデータは、上記調査の市町村別のデータを集計して算出している。各データの出典元となる調査では、例えば、調査対象が少ない場合には市町村別では集計結果を非公表としていたり、県全体と市町村別では推計方法が異なる場合がある。そのため、各データを全て集計しても、「福島県の農政 1 福島県の農業の現況」の一覧表と合致しない場合がある。

県北農林事務所

- ・伊達農業普及所
- ・安達農業普及所

県中農林事務所

- ・田村農業普及所
- ・須賀川農業普及所

県南農林事務所

会津農林事務所

- ・喜多方農業普及所
- ・坂下農業普及所

南会津農林事務所

相双農林事務所

- ・双葉農業普及所

いわき農林事務所

県北農林事務所の農業関係資料
 県北農林事務所 農業振興普及部

	単位	H17年	H12年	増減	比率(%)
農家数・農家人口等					
農家数	戸	9,116	9,760	644	6.6%
自給的農家	戸	2,747	2,300	447	19.4%
販売農家	戸	6,369	7,460	1,091	14.6%
専門農家	戸	1,424	1,300	124	9.5%
第1種兼業農家	戸	1,018	1,237	219	17.7%
第2種兼業農家	戸	3,927	4,923	996	20.2%
農家人口	人	37,650	43,812	6,162	14.1%
男	人	18,645	21,745	3,100	14.3%
女	人	19,005	22,067	3,062	13.9%
耕地面積等					
耕地面積	ha	8,989	9,302	313	3.4%
田	ha	3,921	4,183	262	6.3%
畑	ha	5,073	5,118	45	0.9%
作付延べ面積	ha	8,026	8,309	283	3.4%
耕地利用率	%	89.3%	89.3%	0.0	-
耕作未利用地	ha	963	993	30	3.0%
耕作未利用率	%	10.7%	10.7%	0.0	-
農業産出額及び助成金等					
農業産出額					
米	千万円	341	391	50	12.8%
(全体に占める割合)	%	(14.7%)	(15.5%)	(0.8)	-
野菜	千万円	265	328	63	19.2%
果樹	千万円	1,174	1,208	34	2.8%
畜産	千万円	323	377	54	14.3%
その他	千万円	217	216	1	0.5%
計	千万円	2,320	2,520	200	7.9%
水田農業に関する助成金					
地域協議会・JAを經由	千万円	2	0	2	-
商系米穀集荷業者等を經由	千万円	-	-	-	-
青果物価格安定対策補助金	千万円	20	28	8	28.6%
合計	千万円	2,342	2,548	206	8.1%

		H17年	H12年	増減	比率(%)
耕作放棄地	ha	1,610	1,478	132	8.9%

		平成20年度
認定農業者数	経営体	583
エコファーマー認定件数	件	409

農業産出額については、端数処理や統計上、標本数が少ない場合公表・集計の対象としておらず、金額が単位に満たないものを「0」として表すため、計・合計が一致しないことがある。

農業産出額：米の占める割合 14.7%

果実の割合 50.6%

耕作放棄地は増加している。

県北農林事務所 伊達農業普及所

	単位	H17年	H12年	増減	比率(%)
農家数・農家人口等					
農家数	戸	7,903	8,383	480	5.7%
自給的農家	戸	2,323	2,108	215	10.2%
販売農家	戸	5,580	6,275	695	11.1%
専業農家	戸	1,225	1,120	105	9.4%
第1種兼業農家	戸	1,194	1,229	35	2.8%
第2種兼業農家	戸	3,161	3,926	765	19.5%
農家人口	人	32,743	37,451	4,708	12.6%
男	人	16,290	18,557	2,267	12.2%
女	人	16,453	18,894	2,441	12.9%
耕地面積等					
耕地面積	ha	6,710	6,807	97	1.4%
田	ha	3,106	3,183	77	2.4%
畑	ha	3,607	3,627	20	0.6%
作付延べ面積	ha	6,145	6,249	104	1.7%
耕地利用率	%	91.6%	91.8%	0.2	-
耕作未利用地	ha	565	558	7	1.3%
耕作未利用率	%	8.4%	8.2%	0.2	-
農業産出額及び助成金等					
農業産出額					
米	千万円	279	312	33	10.6%
(全体に占める割合)	%	(14.1%)	(13.9%)	(0.2)	-
野菜	千万円	502	583	81	13.9%
果樹	千万円	777	858	81	9.4%
畜産	千万円	278	365	87	23.8%
その他	千万円	139	126	13	10.3%
計	千万円	1,975	2,244	269	12.0%
水田農業に関する助成金					
地域協議会・JAを經由	千万円	8	0.9	7	788.9%
商系米穀集荷業者等を經由	千万円	-	-	-	-
青果物価格安定対策補助金	千万円	26	15	11	73.3%
合計	千万円	2,009	2,260	251	11.1%

		H17年	H12年	増減	比率(%)
耕作放棄地	ha	1,049	1,354	305	22.5%

		平成20年度
認定農業者数	経営体	668
エコファーマー認定件数	件	245

農業産出額については、端数処理や統計上、標本数が少ない場合公表・集計の対象としておらず、金額が単位に満たないものを「0」として表すため、計・合計が一致しないことがある。

農業産出額：米の占める割合 14.1%

果樹の割合 39.3%

耕作放棄地は減少している。

県北農林事務所 安達農業普及所

	単位	H17年	H12年	増減	比率(%)
農家数・農家人口等					
農家数	戸	8,201	8,635	434	5.0%
自給的農家	戸	1,956	1,442	514	35.6%
販売農家	戸	6,245	7,193	948	13.2%
専業農家	戸	509	527	18	3.4%
第1種兼業農家	戸	759	727	32	4.4%
第2種兼業農家	戸	4,977	5,939	962	16.2%
農家人口	人	39,847	44,391	4,544	10.2%
男	人	19,692	21,925	2,233	10.2%
女	人	20,155	22,466	2,311	10.3%
耕地面積等					
耕地面積	ha	10,490	10,510	20	0.2%
田	ha	6,440	6,850	410	6.0%
畑	ha	4,055	3,664	391	10.7%
作付延べ面積	ha	8,740	8,856	116	1.3%
耕地利用率	%	83.3%	84.3%	0.9	-
耕作未利用地	ha	1,750	1,654	96	5.8%
耕作未利用率	%	16.7%	15.7%	0.9	-
農業産出額及び助成金等					
農業産出額					
米	千万円	579	665	86	12.9%
(全体に占める割合)	%	(39.0%)	(40.4%)	(1.5)	-
野菜	千万円	326	357	31	8.7%
果樹	千万円	61	63	2	3.2%
畜産	千万円	417	451	34	7.5%
その他	千万円	103	109	6	5.5%
計	千万円	1,486	1,645	159	9.7%
水田農業に関する助成金					
地域協議会・JAを經由	千万円	32	3	29	966.7%
商系米穀集荷業者等を經由	千万円	-	-	-	-
青果物価格安定対策補助金	千万円	10	8	2	25.0%
合計	千万円	1,528	1,656	128	7.7%

		H17年	H12年	増減	比率(%)
耕作放棄地	ha	2,661	2,533	128	5.1%

		平成20年度
認定農業者数	経営体	660
エコファーマー認定件数	件	631

農業産出額については、端数処理や統計上、標本数が少ない場合公表・集計の対象としておらず、金額が単位に満たないものを「0」として表すため、計・合計が一致しないことがある。

耕作放棄地は増加している。

県中農林事務所の農業関係資料
 県中農林事務所 農業振興普及部

	単位	H17年	H12年	増減	比率(%)
農家数・農家人口等					
農家数	戸	8,396	9,095	699	7.7%
自給的農家	戸	1,765	1,457	308	21.1%
販売農家	戸	6,631	7,638	1,007	13.2%
専門農家	戸	884	660	224	33.9%
第1種兼業農家	戸	1,090	1,254	164	13.1%
第2種兼業農家	戸	4,657	5,724	1,067	18.6%
農家人口	人	38,627	45,269	6,642	14.7%
男	人	18,977	22,326	3,349	15.0%
女	人	19,650	22,943	3,293	14.4%
耕地面積等					
耕地面積	ha	13,300	13,800	500	3.6%
田	ha	10,500	10,800	300	2.8%
畑	ha	2,730	3,000	270	9.0%
作付延べ面積	ha	11,400	12,000	600	5.0%
耕地利用率	%	85.7%	87.0%	1.2	-
耕作未利用地	ha	1,900	1,800	100	5.6%
耕作未利用率	%	14.3%	13.0%	1.2	-
農業産出額及び助成金等					
農業産出額					
米	千万円	1,066	1,180	114	9.7%
(全体に占める割合)	%	(56.6%)	(58.0%)	(1.4)	-
野菜	千万円	316	354	38	10.7%
果樹	千万円	47	55	8	14.5%
畜産	千万円	336	312	24	7.7%
その他	千万円	119	133	14	10.5%
計	千万円	1,884	2,034	150	7.4%
水田農業に関する助成金					
地域協議会・JAを經由	千万円	21	3.9	17	438.5%
商系米穀集荷業者等を經由	千万円	-	-	-	-
青果物価格安定対策補助金	千万円	4	5	1	20.0%
合計	千万円	1,909	2,043	134	6.6%

		H17年	H12年	増減	比率(%)
耕作放棄地	ha	1,034	1,177	143	12.1%

平成20年度		
認定農業者数	経営体	277
エコファーマー認定件数	件	319

農業産出額については、端数処理や統計上、標本数が少ない場合公表・集計の対象としておらず、金額が単位に満たないものを「0」として表すため、計・合計が一致しないことがある。

農業産出額：米の占める割合 56.6%
 耕作放棄地は減少している。

県中農林事務所 田村農業普及所

	単位	H17年	H12年	増減	比率(%)
農家数・農家人口等					
農家数	戸	7,139	7,437	298	4.0%
自給的農家	戸	1,590	1,202	388	32.3%
販売農家	戸	5,549	6,235	686	11.0%
専業農家	戸	593	498	95	19.1%
第1種兼業農家	戸	835	850	15	1.8%
第2種兼業農家	戸	4,121	4,887	766	15.7%
農家人口	人	33,191	36,790	3,599	9.8%
男	人	16,415	18,206	1,791	9.8%
女	人	16,776	18,584	1,808	9.7%
耕地面積等					
耕地面積	ha	9,020	9,089	69	0.8%
田	ha	4,572	4,705	133	2.8%
畑	ha	4,450	4,395	55	1.3%
作付延べ面積	ha	6,954	7,567	613	8.1%
耕地利用率	%	77.1%	83.3%	6.2	-
耕作未利用地	ha	2,066	1,522	544	35.7%
耕作未利用率	%	22.9%	16.7%	6.2	-
農業産出額及び助成金等					
農業産出額					
米	千万円	319	369	50	13.6%
(全体に占める割合)	%	(22.1%)	(24.0%)	(1.9)	-
野菜	千万円	236	299	63	21.1%
果樹	千万円	4	6	2	33.3%
畜産	千万円	595	455	140	30.8%
その他	千万円	290	411	121	29.4%
計	千万円	1,444	1,540	96	6.2%
水田農業に関する助成金					
地域協議会・JAを經由	千万円	18	0.7	17	2471.4%
商系米穀集荷業者等を經由	千万円	-	-	-	-
青果物価格安定対策補助金	千万円	8	8	0	0.0%
合計	千万円	1,470	1,549	79	5.1%

		H17年	H12年	増減	比率(%)
耕作放棄地	ha	1,621	1,489	132	8.9%

		平成20年度		
認定農業者数	経営体	275		(H20年12月)
エコファーマー認定件数	件	322		(H21年2月)

農業産出額については、端数処理や統計上、標本数が少ない場合公表・集計の対象としておらず、金額が単位に満たないものを「0」として表すため、計・合計が一致しないことがある。

農業産出額：畜産の占める割合が増加している。

県中農林事務所 須賀川農業普及所

	単位	H17年	H12年	増減	比率(%)
農家数・農家人口等					
農家数	戸	10,332	11,051	719	6.5%
自給的農家	戸	1,573	1,320	253	19.2%
販売農家	戸	8,759	9,731	972	10.0%
専門農家	戸	899	771	128	16.6%
第1種兼業農家	戸	1,597	1,735	138	8.0%
第2種兼業農家	戸	6,263	7,225	962	13.3%
農家人口	人	50,203	56,966	6,763	11.9%
男	人	24,934	28,306	3,372	11.9%
女	人	25,269	28,660	3,391	11.8%
耕地面積等					
耕地面積	ha	17,110	17,438	328	1.9%
田	ha	12,287	12,314	27	0.2%
畑	ha	4,830	5,124	294	5.7%
作付延べ面積	ha	14,690	15,411	721	4.7%
耕地利用率	%	85.9%	88.4%	2.5	-
耕作未利用地	ha	2,420	2,027	393	19.4%
耕作未利用率	%	14.1%	11.6%	2.5	-
農業産出額及び助成金等					
農業産出額					
米	千万円	1,185	1,214	29	2.4%
(全体に占める割合)	%	(39.4%)	(36.2%)	(3.3)	-
野菜	千万円	680	824	144	17.5%
果樹	千万円	211	254	43	16.9%
畜産	千万円	778	878	100	11.4%
その他	千万円	151	188	37	19.7%
計	千万円	3,005	3,358	353	10.5%
水田農業に関する助成金					
地域協議会・JAを經由	千万円	23	3.9	19	489.7%
商系米穀集荷業者等を經由	千万円	-	-	-	-
青果物価格安定対策補助金	千万円	20	17	3	17.6%
合計	千万円	3,048	3,379	331	9.8%

		H17年	H12年	増減	比率(%)
耕作放棄地	ha	1,822	1,777	45	2.5%

		平成20年度
認定農業者数	経営体	629
エコファーマー認定件数	件	2,063

() 作物ごと及び作型ごとの累計値

農業産出額については、端数処理や統計上、標本数が少ない場合公表・集計の対象としておらず、金額が単位に満たないものを「0」として表すため、計・合計が一致しないことがある。

耕作放棄地は増加している。

県南農林事務所の農業関係資料
 県南農林事務所 農業振興普及部

	単位	H17年	H12年	増減	比率(%)
農家数・農家人口等					
農家数	戸	10,209	10,701	492	4.6%
自給的農家	戸	1,677	1,346	331	24.6%
販売農家	戸	8,532	9,355	823	8.8%
専門農家	戸	963	769	194	25.2%
第1種兼業農家	戸	1,152	1,146	6	0.5%
第2種兼業農家	戸	6,417	7,440	1,023	13.8%
農家人口	人	47,712	53,560	5,848	10.9%
男	人	23,648	26,404	2,756	10.4%
女	人	24,064	27,156	3,092	11.4%
耕地面積等					
耕地面積	ha	18,104	19,134	1,030	5.4%
田	ha	12,313	12,697	384	3.0%
畑	ha	5,788	6,444	656	10.2%
作付延べ面積	ha	15,690	16,190	500	3.1%
耕地利用率	%	86.7%	84.6%	2.1	-
耕作未利用地	ha	2,414	2,944	530	18.0%
耕作未利用率	%	13.3%	15.4%	2.1	-
農業産出額及び助成金等					
農業産出額					
米	千万円	1,209	1,212	3	0.2%
(全体に占める割合)	%	(39.1%)	(40.2%)	(1.1)	-
野菜	千万円	658	684	26	3.8%
果樹	千万円	41	53	12	22.6%
畜産	千万円	918	675	243	36.0%
その他	千万円	266	388	122	31.4%
計	千万円	3,092	3,012	80	2.7%
水田農業に関する助成金					
地域協議会・JAを經由	千万円	9	1.4	8	571.4%
商系米穀集荷業者等を經由	千万円	-	-	-	-
青果物価格安定対策補助金	千万円	10	11	1	9.1%
合計	千万円	3,111	3,024	87	2.9%

		H17年	H12年	増減	比率(%)
耕作放棄地	ha	1,499	1,491	8	0.5%

平成20年度		
認定農業者数	経営体	561
エコファーマー認定件数	件	1,095

農業産出額については、端数処理や統計上、標本数が少ない場合公表・集計の対象としておらず、金額が単位に満たないものを「0」として表すため、計・合計が一致しないことがある。

農業産出額：畜産の占める割合が増加している。

会津農林事務所の農業関係資料
会津農林事務所 農業振興普及部

	単位	H17年	H12年	増減	比率(%)
農家数・農家人口等					
農家数	戸	5,113	5,504	391	7.1%
自給的農家	戸	1,008	793	215	27.1%
販売農家	戸	4,105	4,711	606	12.9%
専門農家	戸	463	462	1	0.2%
第1種兼業農家	戸	858	954	96	10.1%
第2種兼業農家	戸	2,784	3,295	511	15.5%
農家人口	人	24,058	27,536	3,478	12.6%
男	人	11,735	13,349	1,614	12.1%
女	人	12,323	14,187	1,864	13.1%
耕地面積等					
耕地面積	ha	11,139	11,558	419	3.6%
田	ha	9,420	9,926	506	5.1%
畑	ha	1,717	1,636	81	5.0%
作付延べ面積	ha	10,408	10,614	206	1.9%
耕地利用率	%	93.4%	91.8%	1.6	-
耕作未利用地	ha	731	944	213	22.6%
耕作未利用率	%	6.6%	8.2%	1.6	-
農業産出額及び助成金等					
農業産出額					
米	千万円	1,023	1,150	127	11.0%
(全体に占める割合)	%	(67.9%)	(69.7%)	(1.8)	-
野菜	千万円	234	261	27	10.3%
果樹	千万円	89	72	17	23.6%
畜産	千万円	47	43	4	9.3%
その他	千万円	114	124	10	8.1%
計	千万円	1,507	1,650	143	8.7%
水田農業に関する助成金					
地域協議会・JAを經由	千万円	80	15	65	433.3%
商系米穀集荷業者等を經由	千万円	-	-	-	-
青果物価格安定対策補助金	千万円	2	1	1	100.0%
合計	千万円	1,589	1,666	77	4.6%

		H17年	H12年	増減	比率(%)
耕作放棄地	ha	304	229	75	32.8%

平成20年度		
認定農業者数	経営体	532
エコファーマー認定件数	件	458

農業産出額については、端数処理や統計上、標本数が少ない場合公表・集計の対象としておらず、金額が単位に満たないものを「0」として表すため、計・合計が一致しないことがある。

農業産出額：米の占める割合 67.9%
耕作放棄地は増加している。

会津農林事務所 喜多方農業普及所

	単位	H17年	H12年	増減	比率(%)
農家数・農家人口等					
農家数	戸	6,057	6,420	363	5.7%
自給的農家	戸	1,326	1,142	184	16.1%
販売農家	戸	4,731	5,278	547	10.4%
専業農家	戸	750	621	129	20.8%
第1種兼業農家	戸	829	968	139	14.4%
第2種兼業農家	戸	3,152	3,689	537	14.6%
農家人口	人	25,636	28,856	3,220	11.2%
男	人	12,464	13,973	1,509	10.8%
女	人	13,172	14,883	1,711	11.5%
耕地面積等					
耕地面積	ha	10,047	10,722	675	6.3%
田	ha	8,254	8,905	651	7.3%
畑	ha	1,796	1,813	17	0.9%
作付延べ面積	ha	9,252	9,508	256	2.7%
耕地利用率	%	92.1%	88.7%	3.4	-
耕作未利用地	ha	795	1,214	419	34.5%
耕作未利用率	%	7.9%	11.3%	3.4	-
農業産出額及び助成金等					
農業産出額					
米	千万円	986	1,106	120	10.8%
(全体に占める割合)	%	(69.7%)	(71.8%)	(2.1)	-
野菜	千万円	251	257	6	2.3%
果樹	千万円	20	17	3	17.6%
畜産	千万円	92	88	4	4.5%
その他	千万円	66	73	7	9.6%
計	千万円	1,415	1,541	126	8.2%
水田農業に関する助成金					
地域協議会・JAを經由	千万円	52	4.5	48	1055.6%
商系米穀集荷業者等を經由	千万円	-	-	-	-
青果物価格安定対策補助金	千万円	7	3	4	133.3%
合計	千万円	1,474	1,549	75	4.8%

		H17年	H12年	増減	比率(%)
耕作放棄地	ha	777	840	63	7.5%

		平成20年度
認定農業者数	経営体	473
エコファーマー認定件数	件	580

農業産出額については、端数処理や統計上、標本数が少ない場合公表・集計の対象としておらず、金額が単位に満たないものを「0」として表すため、計・合計が一致しないことがある。

農業産出額：米の占める割合 69.7%

耕作放棄地は減少している。

会津農林事務所 会津坂下農業普及所

	単位	H17年	H12年	増減	比率(%)
農家数・農家人口等					
農家数	戸	6,297	6,667	370	5.5%
自給的農家	戸	1,715	1,409	306	21.7%
販売農家	戸	4,582	5,258	676	12.9%
専業農家	戸	772	639	133	20.8%
第1種兼業農家	戸	861	964	103	10.7%
第2種兼業農家	戸	2,860	3,655	795	21.8%
農家人口	人	26,406	29,824	3,418	11.5%
男	人	12,892	14,565	1,673	11.5%
女	人	13,514	15,259	1,745	11.4%
耕地面積等					
耕地面積	ha	10,481	10,969	488	4.4%
田	ha	8,528	8,912	384	4.3%
畑	ha	1,955	2,062	107	5.2%
作付延べ面積	ha	9,458	9,871	413	4.2%
耕地利用率	%	90.2%	90.0%	0.2	-
耕作未利用地	ha	1,023	1,098	75	6.8%
耕作未利用率	%	9.8%	10.0%	0.2	-
農業産出額及び助成金等					
農業産出額					
米	千万円	985	1,089	104	9.6%
(全体に占める割合)	%	(66.7%)	(67.5%)	(0.7)	-
野菜	千万円	189	199	10	5.0%
果樹	千万円	80	65	15	23.1%
畜産	千万円	54	54	0	0.0%
その他	千万円	168	207	39	18.8%
計	千万円	1,476	1,614	138	8.6%
水田農業に関する助成金					
地域協議会・JAを經由	千万円	66	11.5	55	473.9%
商系米穀集荷業者等を經由	千万円	-	-	-	-
青果物価格安定対策補助金	千万円	6	7	1	14.3%
合計	千万円	1,548	1,633	85	5.2%

		H17年	H12年	増減	比率(%)
耕作放棄地	ha	420	494	74	15.0%

		平成20年度
認定農業者数	経営体	470
エコファーマー認定件数	件	419

農業産出額については、端数処理や統計上、標本数が少ない場合公表・集計の対象としておらず、金額が単位に満たないものを「0」として表すため、計・合計が一致しないことがある。

農業産出額：米の占める割合 66.7%

耕作放棄地は減少している。

南会津農林事務所の農業関係資料
南会津農林事務所 農業振興普及部

	単位	H17年	H12年	増減	比率(%)
農家数・農家人口等					
農家数	戸	3,665	3,875	210	5.4%
自給的農家	戸	1,272	1,056	216	20.5%
販売農家	戸	2,392	2,819	427	15.1%
専門農家	戸	472	384	88	22.9%
第1種兼業農家	戸	272	358	86	24.0%
第2種兼業農家	戸	1,648	2,077	429	20.7%
農家人口	人	13,513	15,264	1,751	11.5%
男	人	6,577	7,430	853	11.5%
女	人	6,936	7,834	898	11.5%
耕地面積等					
耕地面積	ha	4,035	4,437	402	9.1%
田	ha	2,784	2,936	152	5.2%
畑	ha	1,252	1,496	244	16.3%
作付延べ面積	ha	3,386	3,355	31	0.9%
耕地利用率	%	83.9%	75.6%	8.3	-
耕作未利用地	ha	649	1,082	433	40.0%
耕作未利用率	%	16.1%	24.4%	8.3	-
農業産出額及び助成金等					
農業産出額					
米	千万円	248	244	4	1.6%
(全体に占める割合)	%	(48.6%)	(45.1%)	(3.5)	-
野菜	千万円	141	145	4	2.8%
果樹	千万円	16	10	6	60.0%
畜産	千万円	32	38	6	15.8%
その他	千万円	73	104	31	29.8%
計	千万円	510	541	31	5.7%
水田農業に関する助成金					
地域協議会・JAを經由	千万円	16	0.4	16	3900.0%
商系米穀集荷業者等を經由	千万円	-	-	-	-
青果物価格安定対策補助金	千万円	4	3	1	33.3%
合計	千万円	530	544	14	2.6%

		H17年	H12年	増減	比率(%)
耕作放棄地	ha	574	423	151	35.7%

平成20年度		
認定農業者数	経営体	223
エコファーマー認定件数	件	604

農業産出額については、端数処理や統計上、標本数が少ない場合公表・集計の対象としておらず、金額が単位に満たないものを「0」として表すため、計・合計が一致しないことがある。

耕作放棄地が増加している。

相双農林事務所の農業関係資料
相双農林事務所 農業振興普及部

	単位	H17年	H12年	増減	比率(%)
農家数・農家人口等					
農家数	戸	8,138	8,776	638	7.3%
自給的農家	戸	1,324	971	353	36.4%
販売農家	戸	6,814	7,805	991	12.7%
専門農家	戸	735	644	91	14.1%
第1種兼業農家	戸	913	974	61	6.3%
第2種兼業農家	戸	5,166	6,187	1,021	16.5%
農家人口	人	37,353	43,542	6,189	14.2%
男	人	18,371	21,435	3,064	14.3%
女	人	18,982	22,107	3,125	14.1%
耕地面積等					
耕地面積	ha	16,080	16,370	290	1.8%
田	ha	12,392	12,664	272	2.1%
畑	ha	3,683	3,701	18	0.5%
作付延べ面積	ha	13,620	14,370	750	5.2%
耕地利用率	%	84.7%	87.8%	3.1	-
耕作未利用地	ha	2,460	2,000	460	23.0%
耕作未利用率	%	15.3%	12.2%	3.1	-
農業産出額及び助成金等					
農業産出額					
米	千万円	959	1,091	132	12.1%
(全体に占める割合)	%	(37.7%)	(49.9%)	(12.2)	-
野菜	千万円	740	304	436	143.4%
果樹	千万円	65	79	14	17.7%
畜産	千万円	627	528	99	18.8%
その他	千万円	152	186	34	18.3%
計	千万円	2,543	2,188	355	16.2%
水田農業に関する助成金					
地域協議会・JAを經由	千万円	113	29.1	84	288.3%
商系米穀集荷業者等を經由	千万円	-	-	-	-
青果物価格安定対策補助金	千万円	4	5	1	20.0%
合計	千万円	2,660	2,222	438	19.7%

		H17年	H12年	増減	比率(%)
耕作放棄地	ha	1,099	953	146	15.3%

平成20年度		
認定農業者数	経営体	680
エコファーマー認定件数	件	4,338

農業産出額については、端数処理や統計上、標本数が少ない場合公表・集計の対象としておらず、金額が単位に満たないものを「0」として表すため、計・合計が一致しないことがある。

水田農業に関する助成金が11億3千万円ある。

生産調整は完全に実施されている。

農業産出額は全体で16.2%の増加である。

野菜の農業算出額が大きく増加している。

耕作放棄地は増加している。

相双農林事務所 双葉農業普及所

	単位	H17年	H12年	増減	比率(%)
農家数・農家人口等					
農家数	戸	5,292	5,660	368	6.5%
自給的農家	戸	1,043	895	148	16.5%
販売農家	戸	4,249	4,765	516	10.8%
専門農家	戸	562	456	106	23.2%
第1種兼業農家	戸	391	374	17	4.5%
第2種兼業農家	戸	3,296	3,935	639	16.2%
農家人口	人	22,667	26,126	3,459	13.2%
男	人	11,244	12,879	1,635	12.7%
女	人	11,423	13,247	1,824	13.8%
耕地面積等					
耕地面積	ha	8,733	8,935	202	2.3%
田	ha	6,233	6,433	200	3.1%
畑	ha	2,508	2,498	10	0.4%
作付延べ面積	ha	6,981	7,524	543	7.2%
耕地利用率	%	79.9%	84.2%	4.3	-
耕作未利用地	ha	1,752	1,411	341	24.2%
耕作未利用率	%	20.1%	15.8%	4.3	-
農業産出額及び助成金等					
農業産出額					
米	千万円	431	495	64	12.9%
(全体に占める割合)	%	(35.4%)	(36.2%)	(0.8)	-
野菜	千万円	93	97	4	4.1%
果樹	千万円	47	52	5	9.6%
畜産	千万円	588	636	48	7.5%
その他	千万円	60	89	29	32.6%
計	千万円	1,219	1,369	150	11.0%
水田農業に関する助成金					
地域協議会・JAを經由	千万円	37	6.3	31	487.3%
商系米穀集荷業者等を經由	千万円	-	-	-	-
青果物価格安定対策補助金	千万円	2	2	0	0.0%
合計	千万円	1,258	1,377	119	8.7%

		H17年	H12年	増減	比率(%)
耕作放棄地	ha	705	567	138	24.3%

		平成20年度
認定農業者数	経営体	357
エコファーマー認定件数	件	1,049

農業産出額については、端数処理や統計上、標本数が少ない場合公表・集計の対象としておらず、金額が単位に満たないものを「0」として表すため、計・合計が一致しないことがある。

耕作放棄地は増加している。

生産調整は完全に実施されている。

いわき農林事務所の農業関係資料
 いわき農林事務所 農業振興普及部

	単位	H17年	H12年	増減	比率(%)
農家数・農家人口等					
農家数	戸	8,565	9,255	690	7.5%
自給的農家	戸	2,507	2,118	389	18.4%
販売農家	戸	6,058	7,137	1,079	15.1%
専門農家	戸	797	682	115	16.9%
第1種兼業農家	戸	359	460	101	22.0%
第2種兼業農家	戸	4,902	5,995	1,093	18.2%
農家人口	人	35,281	42,270	6,989	16.5%
男	人	17,385	20,772	3,387	16.3%
女	人	17,896	21,498	3,602	16.8%
耕地面積等					
耕地面積	ha	8,980	9,380	400	4.3%
田	ha	6,620	6,790	170	2.5%
畑	ha	2,360	2,590	230	8.9%
作付延べ面積	ha	7,190	7,600	410	5.4%
耕地利用率	%	80.1%	81.0%	1.0	-
耕作未利用地	ha	1,790	1,780	10	0.6%
耕作未利用率	%	19.9%	19.0%	1.0	-
農業産出額及び助成金等					
農業産出額					
米	千万円	515	611	96	15.7%
(全体に占める割合)	%	(45.7%)	(48.4%)	(2.7)	-
野菜	千万円	290	306	16	5.2%
果樹	千万円	44	43	1	2.3%
畜産	千万円	204	210	6	2.9%
その他	千万円	74	92	18	19.6%
計	千万円	1,127	1,262	135	10.7%
水田農業に関する助成金					
地域協議会・JAを經由	千万円	12	2.9	9	306.9%
商系米穀集荷業者等を經由	千万円	-	-	-	-
青果物価格安定対策補助金	千万円	2	4	2	50.0%
合計	千万円	1,141	1,269	128	10.1%

		H17年	H12年	増減	比率(%)
耕作放棄地	ha	967	846	121	14.3%

平成20年度		
認定農業者数	経営体	248
エコファーマー認定件数	件	511

農業産出額については、端数処理や統計上、標本数が少ない場合公表・集計の対象としておらず、金額が単位に満たないものを「0」として表すため、計・合計が一致しないことがある。

耕作放棄地は増加している。